

科目名	対象学年	対象クラス	単位数	分類	予定時数
古典演習	3	A B C D E F	3	必修選択	117 時間

教科担当・教材等

授業担当者名	
教科書	『高等学校 精選古典探究』(第一学習社)
使用教材等	『改訂三版 完全マスター古典文法』(第一学習社) 『わかる・読める・解けるKey&Point古文単語330三訂版』(いいずな書店) 『新国語総合ガイド五訂版』(啓隆社) 『完成日本文学史ノート三訂版増版』(啓隆社) 『新国語問題集アシスト第23集古文編』(啓隆社) 『共通テスト対策実力養成重要問題演習古典』(Learn-S) 『古典速読トレーニング基礎・標準』(教研出版)

科目の目標

学習目標	【知識及び技能】 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方の関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。
------	---

年間授業計画

学期	単元・単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準
1	A『源氏物語』「若紫」 【知】本文中の用言や助動詞、助詞などの文法事項や古文重要語句の意味を理解する。 【思】現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をする。 【態】自ら進んで登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとする。	・用言や助動詞などの文法事項 ・『源氏物語』について ・敬意の方向 ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知】本文中の用言や助動詞、助詞などの文法事項や古文重要語句の意味を理解する。 【思】現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をする。 【態】自ら進んで登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとしている。
	B『更級日記』「門出」 【知】本文中の用言や助動詞、助詞などの文法事項や古文重要語句の意味を理解する。 【思】現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をする。 【態】自ら進んで登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとする。	・用言や助動詞などの文法事項 ・『更級日記』について ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知】本文中の用言や助動詞、助詞などの文法事項や古文重要語句の意味を理解する。 【思】現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をする。 【態】自ら進んで登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとしている。
	C『大鏡』「三舟の才」 【知】本文中の用言や助動詞、助詞などの文法事項や古文重要語句の意味を理解する。 【思】現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をする。 【態】他の作品などとの関係を踏まえながら文章の内容を的確に捉え、自分の考えを深めようとする。	・用言や助動詞などの文法事項 ・敬意の方向 ・古典常識 ・教材 教科書、プリント ・一人1台端末の活用 等	【知】本文中の用言や助動詞、助詞などの文法事項や古文重要語句の意味を理解する。 【思】現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をする。 【態】自ら進んで登場人物の言動や話の概要とその意味について考察しようとしている。
2	D「問題演習」 【知】本文中の用言や助動詞、助詞などの文法事項や古文重要語句の意味を理解する。 【思】現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をする。 【態】今までの学習を生かして、古典世界に積極的に親しもうとする。	・用言や助動詞などの文法事項 ・古文読解のポイントについて ・教材 教科書、プリント、副教材 ・一人1台端末の活用 等	【知】本文中の用言や助動詞、助詞などの文法事項や古文重要語句の意味を理解する。 【思】現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をする。 【態】今までの学習を生かして、古典世界に積極的に親しもうとしている。
	3	D「問題演習」 【知】本文中の用言や助動詞、助詞などの文法事項や古文重要語句の意味を理解する。 【思】現代語訳する際の注意点を踏まえて、文脈や背景に沿った適切な現代語訳をする。 【態】今までの学習を生かして、古典世界に積極的に親しもうとする。	・用言や助動詞などの文法事項 ・古文読解のポイントについて ・教材 教科書、プリント、副教材 ・一人1台端末の活用 等